

明治三年の東京府「職員録」

小 泉 雅 弘

一

明治初期の地方支配・統治などを検証するための、最も基礎的な史料の一つとして「職員録」「官員録」を挙げる事ができる。制度的にも未確立であった当該期の地方支配は、地方官の裁量に左右される場合が多かった。それだけに、地方官に視点をすえた研究が重要になってくるといえる。東京府の「職員録」は、こうした研究の基礎的な史料にもかかわらず、これまで翻刻されることがなかった。そこで小稿では、東京都公文書館に所蔵されている明治三年二月（【史料1】請求番号364-B3-3）と同年一〇月（【史料2】同上364-B3-4）の東京府「職員録」を紹介したい。

東京都公文書館には小稿で紹介する職員録以外にも若干の職員録が残されているが、貼紙や削除・後筆などによって特定の時期を断定するのが困難であり、そのためここで取り上げる「職員録」がきわめて重要となってくるといえる。しかし紙幅の余裕がないため、具体的な分析は今後の課題とせざるを得ないことをお断りしておきたい。⁽¹⁾

初期東京府の官員総体を対象とした研究として、筆者はこれまでいくつかの論考を発表してきた。⁽²⁾ いまここでその内容を示す紙幅の余裕はないが、それらの方法的基底にあったのは、地方官の履歴書や「職員録」が基礎的史料と認識されつつも、これらを積極的に活用した論考が少ないという研究状況を考慮したことである。⁽³⁾ 東京府の官員履歴については、すでに別稿で

「東京府官員履歴一覽」を提示してあり、小稿で紹介する「職員録」とあわせて、現在知りえる明治零年代の東京府官員をほぼ網羅することになるだろう。

二

さて、【史料1】は表紙にあるとおり明治三年二月の「職員録」で、その中から「職員分局録」を取り上げた。「職員録」の法量は横一六・一cm×縦二二・三cm。袋綴、全一一二丁。(中扉1)に「東京府文庫」の印があり、この職員録は(中扉2)に記されているように民部省へ提出したものの控えである。中略の部分には知府事・大参事各一名、権大参事三名、少参事四名、権少参事三名、権典事三名、大属二六名、権大属三一名、少属三五名、権少属八二名、史生六名、使部五名、出仕三四名、「別手組当分御雇」など二四名、等外附属一〇名、翻訳・通弁二名(等外附属に含まれるか)、合計二七〇名の記載があり、その記載方法の一例を示すと次のとおりである。

大属

静岡藩
森新十郎 源信義

右は【史料2】と比べると任用年月日を欠いており、そのため小稿では割愛した。このほか中略部分には「別手組姓名実名書」として六〇名が記載されている。

【史料1】は最初に奏任官以上の一二名が記され、次いで各局・掛ごとにまとめられている。これらは書式と筆跡が異なることから、それぞれの局・掛で作成されたと考えられる。雛型を提示して作成を命じたものでなかったため、書式の統一が図られていないのであろう。ただし書記課を除き、共通項目として官名・出身(藩)・姓・氏・実名・通称は記されている。出

身に誰々触下とあるのは旧幕臣層であり、⁽⁵⁾その中でも松平長八郎触下にある者は、旧江戸町奉行所の与力・同心であったことが上述した「東京府官員履歴一覽」との比較により確認できる。記載者は延べ二六一名で、このうち重複記載の奏任官四名と常務局・書記課兼勤の権大属谷村官太郎を除くと二五六名になる。これは中略部分の二七〇名という数字と一致せず、その理由は明らかにしえないが、【史料1】が役職ごとに作成されたことを考えると、より実態に近いものとして捉えられよう。

三

【史料2】の「職員録」は法量が横一九・五cm×縦二七・〇cm。袋綴、全一二〇丁。現在ここに掲げた表紙はなく、公文書館のマイクロ化事業の際にハードカバーに製本されたようである。中略部分は（中扉2）の「東京府職員録」とほぼ同じ内容であり、また抹消のための貼紙や付箋が多いため省略した。

【史料2】で取り上げた「東京府職員録」の記載形式をみると、官名ごとにまとめられており、全体を通じて任用年月・出身（藩・身分・属地など）・氏・実名・姓・通称が記され、これに奏任官以上は位階が、判任官以下には役職名が付されている。記載者は三〇九名で、その官名別の内訳を記載順に示すと、知事・御用掛各一名、大参事二名、権大参事一名、少参事四名、権少参事五名、権典事九名、大属二七名、十二等出仕一名、権大属三五名、権大属准席一名、少属四七名、少属ノ心得一一名、史生一一名、使部四名、仕丁一名、十六等一等八名、無等二名、十六等二等二名、十六等三等六名、別手組より邸宅掛へ御雇八名、同物産局へ御雇四名、物産局御用掛四名、別手組より消防掛へ御雇二名、使丁九名、等外附属九名、出仕一五名となる。これを【史料1】の官員数と比べると八カ月の間に全体で五三名の増加をみたことがわかる。もちろんこの数字は、二月から一〇月までの東京府への個々の任用者（転入者）・転出者を考慮していないため、あくまで数字の上で単純に増加した官員数である。

また任用年月日は任用順に記されているが、その官（権典事・大属など）に任じられた年月日であるため注意を要する。すなわち、一例を示すと権典事の西潟八雲は「任庚午年七月廿四日」とあるが、【史料1】では権大属であり、「任庚午年七月廿四日」という日付は東京府内部で権典事に昇進した日付ということになる。したがって、【史料2】の任用年月日は、他から新たに東京府へ任用された者⁽⁶⁾とともに、府内部で昇進した者も併記されているのである。とはいえ、この時期の東京府官員やその出身・職制などを具体的に知ることのできる貴重な史料であることにかわりはない。

明治初年の東京府政の実態についてはいまだ不明な部分が多い。特に維新政権のもとで「民蔵分離問題」などの政治的動向とからみながら東京府政はどのように展開したのか。また当該期をたんなる過渡期としてではなく、近世・近代移行期として捉えなおすならば、どのような特質を抽出できるのか。さらに維新政権の権力構造の問題など、小稿で紹介した明治三年の東京府「職員録」は、こうした問題を解明していくための布石になると考える。

註

- (1) なお、この時期の「職員録」に関しては、松代藩真田家を扱った原島陽一「明治三年の『職員録』」（『松代―真田の歴史と文化―』第七号、一九九四年）がある。
- (2) 拙稿「東京府成立と官員について」（『史学論集』二〇号、一九九〇年）、同「明治初年東京府の勅・奏任官官制構成」（『駒沢史学』四三号、一九九一年）、同「明治初期東京府の人的基盤―『東京府史料』所載官制『履歴』の紹介をかねて―」（『江東区文化財研究紀要』五号、一九九四年）。
- (3) もちろん地方官にかぎらず中央政府の官制も同様であるが、小稿ではとりあえず、現在の筆者の問題関心から地方官に限定しておきたい。なお、地方官を切り口とした研究視角については、前掲拙稿「明治初期東京府の人的基盤―『東京府史料』所載官制『履歴』の紹介をかねて―」を参照されたい。
- (4) 同右拙稿。
- (5) 千田稔『維新政権の秩禄処分』（開明書院、一九七九年）第二篇第四章参照。
- (6) 註(3) 拙稿掲載の「東京府官制履歴一覽」を参照されたい。

【史料1】明治三年二月 東京府「職員分局録」

〔表紙〕

明治三年 職員録
二月

〔中扉1〕
明治三年午二月

職員録

東京府

〔中扉2〕「は朱書」
〔民部省江相達候扣〕
明治三年午二月

職員録 二

東京府

(中略)

〔中扉3〕
明治三年庚午二月

職員分局録

東京府

知事

壬生正四位藤原基修

大参事

佐賀藩 大木民平藤原喬任

権大参事

福井藩 青山小三郎藤原貞

岩倉大納言家従 北島時之助藤原秀朝

鹿兒島藩 鮫島誠藏藤原尚信

小参事

静岡藩 杉浦武三郎平知周

山口藩 平岡兵吉越智通義

高知藩 後 片岡源馬藤原利和

東江州真野 前 三宮耕菴源義胤

権少参事

藤堂亀久雄触下 山本環一源誠之

名古屋藩 犬飼從七位大養巖麿

佐賀藩 西岡周碩藤原逾明

東京府聽訟掛

大属

静岡藩 森新十郎源信義

元静岡藩 兼松清也源 貞

権大属

永田忠左衛門触下 三浦鉦三源正直

古河藩 河口倫二藤原寛

松本藩 井上 踏源好武

福岡藩 平山卯八郎大中臣能忍

権少属

松平長八郎触下 鈴木定八平貞幹

溝口双溪触下 兼松勘次郎源喬寿

同 児玉八十次郎橘盛興

東京府断獄掛

大属

溝口双溪触下 三村吉兵衛源親始

徳嶋藩 宮和田勇太郎平胤影

岡山藩

渡辺由衛源義則

権大属

元静岡藩 広瀬鐘平源邦直

静岡藩 百瀬章蔵源幸隆

熊本藩 高山秋蔵藤原一房

少属

松平長八郎触下 田中文右衛門藤原広徳

溝口双溪触下 加藤保次郎藤原忠林

(貼紙) 高橋恒五郎源忠嘉

彦根藩 森鐘次郎藤原貞宜

松平長八郎触下 河原清太郎源直侯

同 断 大八木銀次郎源高褒

鴈山藩 石井富弥藤原萬明

西尾藩 渡辺清蔵源綱忠

松平長八郎触下 大関孝作丹治重孝

権少属

溝口双溪触下 神田吉十郎菅原久嘉

同 断 三繩茂左衛門藤原忠磨

同 断	野村弥兵衛菅原保世
一橋藩	大林辰作藤原常高
田安藩	小川七三郎藤原信忠
館山藩	小川新次郎藤原忠次
下妻藩	佐竹泰次郎源義明
忍 藩	竹村孝右衛門源義高
佐貫藩	牧野庫次郎藤原義道
佐野藩	押鐘善八源義白
生実藩	渡辺喜多郎源忠直
小見川藩	青柳儀八平守吉
三日市藩	鈴木藤五藤原正直
高岡藩	鈴木岩右衛門平所義

出仕

熊本藩	後藤喜右衛門藤原則一
同 断	林 夫平太藤原時直
津山藩	玉置茂七藤原範定
広島藩	林 順平源成敏
同 藩	破多文治源孟敦

同 藩	村上權助源質善
大垣藩	岡崎 弘藤原法高
同 藩	高木政五郎藤原正賢
同 藩	加納清治藤原直政
福山藩	山田誠次郎藤原茂一
同 藩	川 嶋 盟源光重
同 藩	鈴木欽吾源每利
松江藩	三增和惣太源孟辰
同 藩	安達台之助藤原信明

(以下、常務局二名)

金沢藩	権典事 増田園三 源贊
-----	-------------

元下太夫	大属 匝瑳六郎
大久保与七郎触下	平胤常

佐賀藩	大属 福岡喜四郎 藤原義弁
-----	---------------

溝口双溪触下	権大属 谷村官太郎 源正養
--------	---------------

新発田藩

権大属
西 潟 八 雲
平 訥

二月

常務局

溝口双溪触下

少属
笹岡小平太
源雅房

(中扉)

貫属掛姓名

奥

常務局

溝口双溪触下

権少属
樋口為之助
藤原則義

少参事

高知藩

片岡

源馬
藤原利和

松平長八郎触下

同
相場誠一郎
源康政

権少参事

名古屋藩

犬飼

巖磨
犬養姓名通称

松平長八郎触下

同
鈴木信太郎
穂積寿承

同

佐賀藩

西岡

周碩
藤原逾明

溝口双溪触下

同
桑原秀吉
藤原高雅

権典事

上田藩

鈴木

木健
源姓名通称

(貼紙位置)
権少属 「出仕」

小林陣八郎

藤原重正

同

津和野藩

増野

貞吉
源姓名通称

同

田口孫四郎

藤原能謙

権大属

笠間藩

金井

正八
源直義

右之通御座候

同

肥田潤之助触下

山内昌三
源長敬

同

松平大嶽触下

吉川丹藏
平孝友

同

同

赤井鎌太郎
源長養

同

大久保義雄触下

百々貞次郎
越智通実

少属

松平長八郎触下

尾上与之助
菅原義孝

同

渥美九郎兵衛触下

青柳源兵衛
源親善

同

永田忠左衛門触下

富田左太郎
源信守

同

肥田潤之助触下

落合小次郎
越智通則

出仕

津藩

鈴木国次
源正春

同

福岡藩

山崎吉郎
源則勝

同

同

松生愚郎
源直道

同

彦根藩

戸塚孫之進
源正理

使丁

妙法院宮内

須藤貞之助
藤原朝高

同

竹内静雄触下

勝山保次郎
源義雄

同

岡部鉦次郎触下

岩田伝之助
源泰之

同

岡部盛次郎触下

矢田堀忠次郎
源久幸

同

井上三郎触下

秋山永藏
源高邦

同

永井龍太郎触下

樋田才次郎
源利春

右之通

二月

(以下、出納局八名)

福井藩
東京府大属
姓源
実名益通

岡本新四郎

宇都宮藩
東京府権大属
姓源
実名成憲

渡辺大介

飯野藩
東京府少属
姓源
実名知剛

杉茂兵衛

東京府少属

士族卒触頭
六郷十郎左衛門触下
宮塚三平
藤原正義

士族卒触頭
松平長八郎触下
東京府権少属
姓藤原
実名通宝

日向野良平

士族卒触頭
溝口双溪触下
東京府権少属

川上文五郎
藤原朝褒

士族卒触頭
松平長八郎触下
東京府権少属
姓藤原
実名俣保

小野田清吉

金沢藩
東京府出仕
姓藤原
実名一成

大橋濟之助

右之通御座候

出納局

郡政局

加藤三左衛門触下
権大属
青木新次郎
源 昭
熊本藩
同

志水典左衛門
源 清虎

宇都宮藩
少属
本多謙一
藤原長盛

辻彦三郎触下
権少属
高橋恒作
源 政晁

甲斐国知事元附属

同

奥野三蔵

大江以義

神保数馬触下

同

田中収一

源利忠

〔貼紙〕
〔邸改〕

新発田藩

大属

中野磯平

源保定

大久保義雄触下

権大属

吉本与惣左衛門

藤原郷友

松平長八郎触下

権大属

横山善兵衛

源正行

久松倡之充触下

少属

奥原久左衛門

藤原至誠

三井万三郎触下

少属

鎌方金四郎

藤原為利

向井政太郎触下

権少属

上野謙次郎

源義勇

辻彦三郎触下

権少属

武川清七郎

民部省監督司御用掛

武川与五郎悴

藤原昌寿

久松倡之充触下

同

鈴木春次郎

藤原直行

設楽甚三郎触下

同

坪井卯吉

藤原正身

松平長八郎触下

同

森鎌太郎

源英茂

名古屋藩

同

三輪栄之助

藤原重義

津藩

出仕

押見直次郎

源久純

右之通御座候、以上

午二月

邸改

加藤弥次郎触下

別手組
屋鋪改御雇

今井英次郎

源繁勝

設楽甚三郎触下

同同

贄田鐘五郎
藤原正尚

徳永於市郎触下

別手組
屋鋪改御雇

本郷鉄五郎
藤原直秀

杉浦常之助触下

同同

伊佐貞吉
源正次

神尾鈴太郎触下

同同

清水謹平
源行景

水野志津摩触下

同同

笠原国輔
藤原義信

水野志津摩触下

別手組
屋鋪改御雇

小村利有弥
藤原利庸

三枝千足触下

同同

伊藤仙一郎
藤原吉福

肥田潤之助触下

同同

寺嶋藤九郎
藤原居著

瓦林録太郎触下

同同

寺田甚右衛門
藤原千道

編修掛

元静岡藩

草莽(莽力)

山崎

源大属
源衡
通称衡三郎

士族卒触頭

溝口双溪触下

高橋権大属

源正法
通称銀十郎

犬山藩士族

小木須権大属

藤原幸昭
但通称共

士族卒触頭

松本長八郎触下

相場権少属

源季喬
通称平左衛門

同

同

山本権少属

源重昌
通称兵藏

物産局官員

少参事

山口藩 平岡 兵 吉越智通義

同

同

松平誠一郎触下
柳沢弥右衛門 源 敬長

物産局官員

正六位大属

開墾掛 西京 石井千 尋宇治正心

同

開墾掛兼

下総国水海道村 秋場庸太郎 源行庸

大属

開墾掛兼 同 撫育掛兼 渋川直衛源正名

史生

開墾掛

三春藩 神山栄之進藤原孝寿

大属

開墾掛 山口藩 井上新一 郎大江守一

出仕

水原処士 泉 静一郎

権大属

開墾掛 徳島藩 木村市三郎 源重義

同局職員

同

御林掛兼 静岡藩 山内八三郎 源昌道

御手組〆 御雇出仕

東京 御林下掛 大木幹介藤原孝利

同

開墾掛 渥見九郎兵衛触下 芳賀栄之助 源忠昌

同

同 篠原七太郎 源武則

同

編修 越後国水原 熊倉嘉平 源美雅

同

静岡藩 開墾掛 古屋雄作 源義治

授産 岡山 山馬島素人 橘金恒

同

東京 同 菊間藤一 源義一

権少属

開墾掛 東京久松主計触下 井上治左衛門藤原直信

同

同 書記掛 高橋清四郎藤原明德

同 開墾掛 同 竹内今右衛門菅原順道

出仕 同 福岡藩 伊藤惣吾源基近

御雇 筆生 東京 書記掛 岡村彦九郎藤原常美

物産局御用掛 野州足利 大川雲平源昌信

町会所掛

東京府大属 佐嘉藩 真崎長兵衛源健一

東京府権大属 溝口双溪触下 嶋左太郎源一忠

東京府少属 前橋藩 大沢貫五源只之

東京府少属 溝口双溪触下 新井抵次郎源広延

東京府権少属 上総国山辺郡広瀬村産生 広瀬弘三郎源本治

東京府権少属

溝口双溪触下 吉沢五郎蔵橘重威

川船改掛 大川端御役所江出勤 東京府大属 辻彦三郎触下 誠六郎 藤原親良

川船改掛 大川端御役所江出勤 東京府権少属 永見貞之丞触下 佐藤祥三 藤原元教

川船改掛 大川端御役所江出勤 東京府権少属 向井政太郎触下 川嶋鉄太郎源繁徳

川船改掛 大川端御役所江出勤 東京府権少属 向井政太郎触下 山田伊助源広吉

川船改掛 大川端御役所江出勤 東京府史生 永見貞之丞触下 小川銚之助 藤原知之

川船改掛 大川端御役所江出勤 東京府史生 朝倉小源太触下 堀小太郎 菅原晴元

川船改掛 大川端御役所江出勤 東京府史生 松平誠一郎触下 明倉新十郎 平久知

川船改掛
大川端御役所江出勤
東京府史生
静岡被召出弁官附願中
関長三
藤原時古

川船改掛
大川端御役所江出勤
東京府史生
永見貞之丞触下一作悴
伊藤邦三郎
藤原永昌

川船改掛
大川端御役所江出勤
東京府出仕
永見貞之丞触下祥蔵悴
佐藤慎助
藤原元周

川船改掛
大川端御役所江出勤
東京府使部
元川船方手代
岡本信三
藤原吉氏

川船改掛
大川端御役所江出勤
東京府使部
元川船方手代
田原登三吉
藤原義道

川船改掛
大川端御役所江出勤
東京府使部
元川船方手代
広瀬七十郎
藤原能行

拾三人
二月

戸籍掛

松平長八郎触下士族
東京府権大属
蜂屋新五郎
源昌興

同人触下士族
東京府権大属
都筑十左衛門
安倍成幸

同人触下卒族
東京府権少属
岩井勝
源勝明

同人触下卒族
東京府権少属
相原伝八郎
源行慶

東京府高輪教育所掛

新田万次郎家来
大属
田源稻雄

福知山藩
権少属
遊佐誠五郎源正幸

深川猿江摩利支社神使部
神主吉田兵庫三男
吉田勝次郎源繁啓

三田

東京府大属 福江藩
三田教育所掛 近藤八十右衛門
藤原利邦

東京府少属 沼田藩
三田教育所掛 角田音三郎
源長伸

東京府少属 谷田部藩
三田教育所掛 富田熊大郎
藤原義和

東京府少属 鶴牧藩
三田教育所掛 田中友衛
源信邦

東京府少属 元増上寺家来
三田教育所掛 小原永輔厄介弟
堀口城助
源貞固

東京府使部 元下太夫
三田教育所掛 諏訪万吉郎家来
水谷五郎兵衛
平景保

東京府出仕 津藩
三田教育所掛 松崎直吉
源直義

(中扉)
職員姓名等帳

「
翹町
教育所
」

大属 関宿藩 大坪省助源正功

少属 佐賀藩 大島稽介藤原忠貞

少属 山口藩 中島権之進藤原舜教

出仕 金沢藩 中村久米三藤原清一

出仕 金沢藩 桑木堅之助橘愛信

出仕 熊本藩 和田多平太平忠光

右当局職員姓名并出所如斯候也

二月 翹町 教育所

物産局 御中

(中扉)
「運上所掛姓名書」

東京運上所

大久保義雄触下 小花東京府大属

源邦孚
俗称作之助

皆川市之丞触下 小林東京府少属

源好愛
俗称次郎助

神尾鈴太郎触下

篠原東京府少属

藤原則伴
俗称連十郎

静岡藩

穎川東京府少属

葉雅文
俗称君平

神尾鈴太郎触下

赤沼東京府權少属

平常一
俗称与一

皆川市之丞触下

関口東京府權少属

藤原昭
俗称貞次郎

万年得三郎触下

木寺東京府權少属

源安敦
俗称籌太郎

運上所前
真福寺橋荷物改所出張
稻荷橋

神尾鈴太郎触下

玉井東京府權少属

藤原宮治
俗称源吾

町田幸十郎触下

山崎東京府權少属

源元美
俗称正助

松平長八郎触下

秋山東京府權少属

源寬直
俗称鉄五郎

松平長八郎触下

小島東京府權少属

藤原政径
俗称鍊三

品川尋問所
南小田原町
南飯田町
荷物改所出張

三田運二郎触下

原東京府權少属

藤原保之
俗称徳太郎

三田運一郎触下

横井東京府權少属

平忠時
俗称重兵衛

瓦林録太郎触下

高橋東京府權少属

源聿修
俗称金次郎

第五大区総長

大属

元広島藩

田中太郎左衛門源信良

第四大区総長

大属

元岡山藩

水野徳太郎源元靖

第三大区総長

大属

元高知藩
黒岩剛助 橘直方

第一大区総長

大属

広島藩
西川理三郎 橘易

第二大区総長

大属

松江藩
本多権八 藤原正中

第六大区総長

大属

一橋藩
長坂健三 源信寛

市政取締掛

少属

松平長八郎 触下
岡本三二郎 藤原武徳

吉田敬蔵 源希賢

水戸藩
中川秀之助 源忠純

権少属

溝口双溪 触下
三井一作 藤原道成

(以下四名、追筆力)

十津川浪士

岩本二郎 源正典
岡山藩
石川為吉 源信好

淀藩

大竹節哉 平知高

元米沢藩
下條清源 清

松平長八郎 触下
古谷銹吉 藤原宜福

少属

大沢藤蔵 源藤政

権少属

大竹和三郎 藤原長幹

権少属

鯖江藩
井上讓 子誠

権大属

第四大区総長
柳川藩士族
綿貫敬大郎 源吉直

東京府検例掛

大属

松平長八郎 触下

安達礼三 藤原盛貞

権少属

同 田中金次郎 紀義忠

右 松平長八郎 触下

同

加藤忠次郎 藤原勝直

同 渡辺国三郎 源吉利

同

川村直吉郎 源直舛

右 溝口双溪 触下

同 永嶋金十郎 橋保邦

同

大村清吉郎 藤原信光

右 松平長八郎 触下

同 大竹彦五郎 藤原正直

同

田中辰蔵 藤原正親

右 溝口双溪 触下

東京府権大属

(以下、訴訟掛二三名)

彦根藩 同 広田常平 藤原敬寛

下館藩

同

江間謙次 源種美

徳島藩 同 飯田寛助 源将興

彦根藩

同

上原忠三郎 藤原正義

士族

卒触頭 松平長八郎 触下

同 権少属

森本庄九郎 源義貞

津山藩

同

石坂甚次郎 藤原泰

同断 中村磋七 源信義

松江藩

同

安田三郎 藤原善良

卒触頭 溝口双溪 触下

高木耕一郎 源豊久

書記課

兼勤

谷村官太郎

辻彦三郎触下

中村七郎源光

常州石岡

鈴木彦一郎藤原直

元若森具附属

飯田恒男藤原嘉憲

中村藩

伊東廉蔵藤原誠実

岡山藩

島素人橘金恒

秋月藩

戸原楨国大蔵継胤

*虫損部分などは(中略)部分の記載より比定した。

【史料2】明治三年十月 「東京府職員録」

(表紙)

東京府
都庁
文庫

東京都公文

(中扉1)
明治三年

職員録三

(中略)

(中扉2)

「明治三庚午年十月改

東京府職員録

東京府職員録

知事

任己巳年十月八日

御用掛

庚午年七月十三日拜命

大木民部大輔

華族

正四位藤原基修

壬生

大参事

任庚午年七月十八日

福井藩

従五位藤原貞

青山小三郎

岩倉家々来

従五位藤原秀朝

北島時之助

権大参事

任庚午年八月八日

山口藩

正六位越智通義

平岡兵吉

少参事

任己巳年十一月二日

静岡藩

従六位平知周

杉浦武三郎

兼任同年十二月二日
東京府貫屬
正七位丘部權少丞義胤源
三宮耕庵

權典事

任己巳年十二月十七日
東京府貫屬
從六位藤原利和
片岡源馬

任己巳年十二月十日 貫屬掛
上田藩 源 健
鈴木

任庚午年六月廿四日
佐賀藩
從六位藤原逾明
西岡周碩

任庚午年正月十四日 同
津和野藩 源 貞吉
增野

權少參事

任己巳年九月三十日
東京府貫屬
正七位源誠之
山本環一

任同年五月八日 消防掛
鹿兒島藩 平 友卿
柳田東洋

任同年十二月廿七日
名古屋藩
正七位犬飼巖磨
犬飼

任同年六月廿八日 常務掛
金沢藩 源 贊
增田園三

任庚午年十月四日
華族
從四位藤原実丈
川鱒

任庚午年七月廿四日 常務掛
新發田藩 平 訥
西瀉八雲

任同年同月十七日
山口藩
正七位平 瑜
(交力)
片野十郎

任同年八月五日 断獄掛
高知藩 源 甕男
南部静太郎

任同年十月廿七日
鹿兒島藩
正七位藤原兼徳
郷田郡平

任同年月廿七日 常務掛
東京府貫屬大久保与七郎家来
平 常胤
匝差六郎

兼任庚午年九月二日 府兵掛
鳥取藩 兵部大録源武運
唯九十九

典事

任同年十月廿五日

聽訟掛

名古屋藩
穂積重堅
鈴木太兵衛

同前

教育所掛

福江藩
藤原利邦
近藤八十右衛門

大属

同前

教育掛

岩鼻貫属新田満次郎家来
源 稻雄
岡田

任己巳年七月廿一日 訟獄検例掛

東京府貫属
源 親始
三村吉兵衛

同前

断獄掛

岡山藩
源 義則
渡辺由衛

同前

運上所掛

静岡藩
源 信義
森新十郎

同前

物産掛

福井藩
源 益道
岡本新四郎

任同年月二十八日

郡政掛

関宿藩
源 正功
大坪省助

同前

川船掛

東京府貫属
藤原親良
城六郎

任同年九月五日

編修掛

静岡藩
源 衡
山崎衡三郎

同前

運上所掛

同
源 邦孚
小花作之助

同前

編修掛

宇治正心
石井千尋

任己巳年十一月二日

町会所掛

佐賀藩
源 健一
真崎長兵衛

同前

断獄掛

徳島藩
平 胤影
宮和田勇太郎

同前

常務掛

同
藤原義弁
福岡喜四郎

同前

物産掛

山口藩
大江守一
井上新一郎

任同年月十七日

府兵掛

高知藩
橘 直方
黒岩剛助

同前

訟獄検例掛

東京府貫属
藤原盛貞
安達礼三

任同年十二月十九日 同
松江藩 藤原正中
本多権八

任同年月廿二日 同
岡山藩 源 元靖
水野徳太郎

任庚午年正月廿八日 同
徳島藩 橋 易
西川理三郎

任同年四月二日 聴訟掛
徳島藩 藤原宜之
間中

任同年六月廿三日 監察掛
山口藩 藤原知信
吉本真九郎

同前 物産掛
静岡藩 源 昌道
山内八三郎

同前 同
越後水原処士 源 美雅
熊倉嘉平

任庚午年六月廿七日 聴訟掛
古河藩 藤原 寛
河口倫二

任同年七月廿三日 府兵掛
柳川藩 源 吉直
綿貫敬太郎

同前 同
長崎県貫属 藤原景由
白江龍吉

十二等
出仕

庚午年正月十日命ス 断獄掛
鹿兒島藩 藤原則命
安藤十郎

権大属

任己巳年七月廿一日 戸籍掛
東京府貫属 源 昌興
蜂屋新五郎

同前 同
同 安倍成幸
都筑十左衛門

同前 郡政掛
同 源 昭
青木新次郎

同前 同
同 源 正頼 (養)
谷村官太郎

同前 消防掛
同 源 正直
三浦鉦三

同前
出納掛
宇都宮藩
源 盛憲
渡辺大助

任同年月十二日
聽訟掛
松本藩
源 好武
井上躋

任同年七月廿二日
町会所掛
東京府貫屬
源 一忠
島左太郎

任同年月十五日
同
福岡藩
大中臣能忍
平山卯八郎

任同年九月五日
訴訟掛
彦根藩
藤原敬寬
広田常平

任同年十二月四日
貫屬掛
笠間藩
源 直義
金井正八

同前
物産掛
德島藩
源 重義
木村市三郎

同前
同
東京府貫屬
源 長敏
山内昌三

同前
訴訟掛
德島藩
源 将興
飯田寛助

同前
同
同
平 孝友
吉川丹藏

同前
編修掛
犬山藩
藤原幸昭
小木須

任同年月五日
同
同
源 長頼
赤井鎌太郎

同前
物産掛
東京府貫屬
源 忠昌
芳賀栄之助

同前
同
同
越智通貫
百々貞次郎

同前
断獄掛
熊本藩
藤原一祥
高山秋蔵

任庚午年正月十日
聽訟掛
熊本藩
源 清虎
志水浩蔵

任己巳年十一月七日
書記掛
東京府貫屬
源 光賢
中村七郎

任同年三月十二日
断獄掛
彦根藩
藤原貞宜
森鐘次郎

任同年月十四日

物産掛

常州押辺村処士
藤原嘉憲
飯田恒男

同前

同

同
源 高褒
大八木銀次郎

任同年五月二日

常務掛

東京府貫屬
源 好愛
小林次郎助

任同年月十四日

教育掛

名古ヤ藩
平 清音
大橋十一郎

任同年六月廿日

居切村
開墾掛

(貼紙位置)
山口藩
有吉昌平

任同年十月四日

邸宅掛

熊本藩
藤原諸足
古閑富次

(貼紙・朱書)
[姓実名
出役先へ問合中二
有之候

任同年月廿八日

府兵掛

宇都宮藩
源 元利
和仁増藏

任同年七月八日

教育掛

福岡藩
源 茂弘
岩崎六郎

権大属准席

東京府貫屬

任同年八月四日

根室州
開拓掛

壬生家々来
高根正也

庚午年二月廿九日命ス 府学掛 (ママ)

藤原政徳
小笠原信八郎

任同年八月廿五日

物産掛

上総国広瀬村処士
源 本治
広瀬弘三郎

少属

断獄掛
消防掛

東京府貫屬
源 直候
河原清太郎

任同年九月二日

常務掛

熊本藩
橘 高確
江口英次郎

同前

府兵掛

同
藤原武徳
岡本三二郎

任同年月四日

断獄掛

東京府貫屬
藤原広徳
田中文右衛門

同前

断獄掛

同
藤原忠林
加藤保次郎

同前

常務掛
源 雅房
消防掛
笹岡小平太

任同年八月廿五日

教育掛
鶴牧藩
源 信邦
田中友衛

任己巳年七月廿三日

断獄掛
鳥山藩
藤原萬明
石井富弥

任同年九月五日

居切村
開墾掛
常州石岡村処士
藤原直道
鈴木彦一郎

同前

同
西尾藩
源 忠綱
渡辺清蔵

任同年九月廿九日

教育掛
佐賀藩
藤原忠貞
大島稽介

同前

出納掛
飯野藩
源 知剛
杉茂兵衛

任同年十月十二日

同
山口藩
藤原舜教
中島権之進

同前

出納掛
東京府貫屬
藤原正義
宮塚三平

任同年十一月二日

貫屬掛
東京府貫屬
藤原義孝
尾上与之助

同前

邸宅掛
同
藤原至誠
奥原久左衛門

任同年十二月四日

郡政掛
宇都宮藩
藤原長盛
本多謙一

同前

同
同
藤原為則
鎌方金四郎

同前

断獄掛
東京府貫屬
丹治重孝
大関孝作

同前

町会所掛
前橋藩
源 只之
大沢貫五

同前

府兵掛
同
源 藤政
大沢藤蔵

任同年七月廿九日

運上所掛
東京府貫屬
藤原則伴
篠原連十郎

同前

同
東京府貫屬
源 忠純
中川秀之助

任同年十二月五日

貫屬掛

同 源 親善
青柳源兵衛

同前

同

同 鄉大藏權大丞弟
大江定安
鄉四郎

同前

同

同 源 信守
富田左太郎

任同年七月九日

府兵掛

小見川藩
藤原秀範
照山東之助

同前

同

同 越智通則
落合小次郎

任同年七月十日

運上所掛

仙台藩
藤原常綱
横尾東作

任庚午年四月廿三日

断獄掛

秋月藩
大藏繼胤
戸原楨国

任同年八月

根室州
開拓掛

東京府貫屬
源 常高
大林辰作

任同年五月二日

運上所掛

東京府貫屬
樊 武克
高尾泰次郎

同前

同

東京府貫屬
源 利忠
田中枚一

任同年六月四日

断獄掛

福井藩
源 弘温
吉田平四郎

同前

同

同 平 忠時
横井重丘

任同年六月廿三日

物産掛

東京府貫屬
藤原直信
井上次左衛門

任同年八月十二日

物産掛

静岡藩
藤原直養
白井勇象

同前

同

同 源 敬長
柳沢弥右衛門

任同年八月十五日

府兵掛

水口藩
平 盛徳
小川幡八郎

同前

同

下総国水海道村処士
源 行庸
秋場庸太郎

任同年八月廿二日

監察掛

宮津藩
藤原直錢
加藤栄

任同年月廿八日 府兵掛 岡山藩 藤原猷盛 斎藤博吉

任己巳年七月廿三日 聴訟掛 権少属 東京府貫属 源 喬寿 兼松勘次郎

任同年九月四日 邸宅掛 飯田藩 藤原 頤 斎藤貫一郎

同前 同 平 定幹 鈴木定八

任同年月十九日 同 山口藩 藤原正光 黒瀬助四郎

同前 断獄掛 同 橘 盛興 児玉八十次郎

任同年月廿七日 府兵掛 熊本藩 源 光 藤井源次郎

同前 同 菅原保世 野村弥兵卫

同前 物産掛 小浜藩 藤原篤信 中里大作

同前 同 藤原忠磨 三繩茂左衛門

任同年十月四日 邸宅掛 静岡藩 源 静 花井静一郎

同前 同 三口市藩 藤原正直 鈴木藤五

任同年月五日 物産掛 金沢藩 源 政嘉 折橋甚左衛門

同前 同 佐野藩 源 義白 押鐘善八

任同年月廿二日 断獄掛 東京府貫属 藤原久嘉 神田吉十郎

同前 同 佐貫藩 藤原義道 牧野庫太郎

出仕 少属ノ心得勤

庚午年十月廿日命ス 断獄掛 松本藩 源 照高 木村貢

同前 同 館山藩 藤原忠次 小川信次郎

同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前
編修掛	同	同	出納掛	同	戸籍掛	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同
源 季喬 相場平左衛門	藤原朝褒 川上文五郎	藤原通宝 日向野良平	藤原儔保 小野田清吉	源 行慶 岩井 勝	源 勝明 相原伝八郎	源 英茂 森鎌太郎	藤原正身 坪井卯吉	藤原直行 鈴木春次郎

同前	同前	同前	同前	任己巳年七月廿四日 訟獄檢例掛	同前	同前	同前	同前
同	同	同	同	同	同	府兵掛	救育掛	同
同	同	同	同	同	同	東京府貫屬	高岡藩	同
源 保和 片山銃次郎	藤原正直 大竹彦五郎	橘 保邦 永島金十郎	源 吉利 渡辺国三郎	紀 義忠 田中金次郎	藤原宜福 古谷鏘吉	藤原長幹 大竹和三郎	平 所義 鈴木岩右工門	源 重昌 山本兵藏

同前

同

同
藤原忠国
原田弥太郎

同前

同

同
藤原政経
小島鍊三

任同年月廿九日

町会所掛

同
源 広延
新井抵次郎

同前

同

同
源 安敦
木寺籌太郎

同前

救育掛

同
増上寺家来小原永助厄介弟
源 貞固
堀口城助

同前

同

同
源 幸脩
高橋金次郎

同前

運上所掛

同
東京府貫属
平 常一
赤沼与一

任同年八月廿八日

川船掛

同
藤原元教
佐藤祥蔵

同前

同

同
藤原宮治
玉井源吾

同前

同

同
源 繁徳
川島錢太郎

同前

同

同
藤原 昭
関口貞次郎

同前

同

同
源 広吉
山田伊助

同前

同

同
源 元美
山崎正次郎

任同年十一月二日

町会所掛

同
橘 重威
吉沢五郎蔵

同前

同

同
藤原保之
原徳太郎

任同年月十五日

書記掛

同
中村藩
藤原誠実
伊藤廉蔵

同前

同

同
源 寛直
秋山錢五郎

任同年十一月廿二日

邸宅掛

同
名古屋藩
藤原重義
三輪栄之助

任同年十二月四日

府兵掛

十津川郷士
源 正典
岩本二郎

同前

同

同名取儀右衛門厄介
源 昌仲
新 誠一

同前

同

米沢藩
源 清
下条仙之助

任同年月廿七日

物産掛

三春藩
藤原孝寿
神山栄之進

同前

同

東京府貫屬
藤原道成
三井一作

同前

同

福岡藩
源 基近
伊藤惣吉

同前

同

淀藩
平 知高
大竹節哉

同前

同

越後国水原処士
源 静
泉静一郎

同前

同

岡山藩
源 信好
石川為吉

同前

同

徳島藩
源 是列
工藤格助

任庚午年六月十八日

同

菊間藩
源 重教
水野深蔵

任同年九月十九日

同

延岡藩
藤原富典
猪狩屋三郎

任庚午年七月九日

同

上田藩
源 重昭
多田欽次郎

任同年十月四日

出納掛

熊本藩
藤原昌次
財津禎八

任同年八月二日

居切村
開墾掛

東京府貫屬
源 久忠
西垣鉞蔵

出仕 権少属ノ心得勤

同年五月十八日命ス 教育掛

東京府貫屬諏訪萬吉家来
平 景保
水谷五郎兵衛

任同年月四日

根室州
開拓掛

同中野平十郎家来
平 経徳
埴原友雄

同年六月十九日命ス 出納掛

金沢藩
藤原一成
大橋濟之助

同前

教育掛

同

藤原清一
中村彙三

史生

任己巳年十月十八日 川船掛

東京府貫屬

菅原晴光
堀小太郎

同前

同

同

橘 愛信
桑木堅之助

(ママ)

藤原知之
小川詮之助

同前

邸宅掛

徳島藩

藤原元治
和田惣十郎

(ママ)

平 久知
那倉新十郎

同前

教育掛

熊本藩

平 忠光
和田多平太

同前

同

同

同前

常務掛

津山藩

藤原能謙
田口孫四郎

同前

同

同

藤原時吉
関 長三

同前

訴訟掛

彦根藩

藤原正義
上原忠三郎

任己巳年十月十九日

同

同

藤原永昌
伊藤邦三郎

同前

断獄掛

福山藩

源 每利
鈴木欽吾

任庚午年四月十四日

教育掛

深川マリン天神主兵庫三男

源 繁啓
吉田勝次郎

同断 (ママ)

同

大垣藩

藤原法高
岡崎 弘

任同年八月二日

聴訟掛

伊能權中博士厄介

源 尚
大塚礼平

同年六月廿命ス

同

広島藩

源 成敏
林 順平

任同年月十五日

断獄掛

桜井藩

藤原綱方
佐野小十郎

任同年九月廿七日

府兵掛

広島藩

源 精政
林 雄介

同前

同

彦根藩
藤原重政
小林陣八郎

任庚午年十月十九日 物産掛

福岡藩
藤原信佑
川崎和太三

使部

己巳年十月十九日命ス 川船掛

東京府貫属佐藤恒蔵厄介
藤原吉民
岡本信三

同前

同

同中泉孫之丞厄介
藤原義道
田原登三吉

同前

同

同鈴木道四郎厄介
藤原能行
広瀬七十次郎

庚午年八月廿三日命ス 救育掛

岡田東京府大属厄介
源直方
塚越六郎

仕丁

庚午年七月五日命ス 府兵掛

丘部省支配貫之助弟
源重明
杉山駒之助

出仕 十六等一等

庚午年七月十八日命ス 監察掛

名古屋藩
源安行
桜井嘉久太郎

同前

同

石岡藩
菅原義芸
大槻義右工門

同年月廿日命ス

府兵掛

彦根藩
藤原貞永
清水大助

同前

同

東京府貫属溝口双溪家来
源政恒
田畑半蔵

庚午年八月廿三日命ス 救育掛

東京府貫属
源義平
弓氣田孫八

同年九月二日命ス

物産掛

静岡藩
源正清
日比野清作

同年十月十日命ス

府兵掛

多古藩
源友直
三島禄郎

同年月十九日命ス

同

芸州広島処士
藤原通愛
木原正三郎

出仕 無等月給金拾五兩

(貼紙位置・抹消カ)
己巳年十月十九日命ス 川船掛 東京府貫属
藤原元周
佐藤慎助

同年十二月八日命ス 運上所掛 東京府貫属
源 冬蔵
田中

(貼紙)
己巳年十二月八日命ス 運上所掛 東京府貫属秀平倅
源 冬蔵
田中

同前 同前月給金拾両

己巳年十月十九日命ス 川船掛 東京府権少属祥蔵倅
藤原元周 (ママ)
佐藤祥蔵

出仕 十六等二等

庚午年八月廿七日命ス 物産掛 彈正台調考山本正巳厄介
源 信敬
深沢幸蔵

同年九月廿七日命ス 府兵掛 東京府貫属
藤原義和
島田藤次郎

出仕 十六等三等

庚午年七月廿三日命ス 居切村 津藩
開墾掛 源 直義
松崎直吉

同前 同
源 正春
鈴木国次

同前 同
妙法院宮家来
藤原朝高
須藤貞之助

同年九月八日命ス 同 (貼紙位置)
静岡藩
熊谷 進

(貼紙・朱書)
「己下三名出役先
へ問合中ニ有之候
但、姓実名」

同前 同
名古屋藩
桑山三郎

同前 同
延岡藩土屋温斎厄介
山田作兵衛

別手組の邸宅掛へ当分御雇
庚午年正月廿日ヨリ 東京府貫属
源 繁勝
今井英次郎

同前 同
藤原正尚
費田鐘五郎

同前

同
藤原直秀
本郷錢五郎

同前

同
源 正次
伊佐貞吉

同前

同
源 行景
清水謹平

同前

同
藤原居著
寺島藤九郎

同前

同
源 忠盛
横田敬三郎

同前

同
源 俊明
渡辺徳五郎

別手組の物産局へ当分御雇

東京府貫属

藤原義信

笠原国次

庚午年六月七日

同前

同
藤原利庸
小林利右弥

同前

同
藤原吉福
伊藤仙一郎

同前

同
藤原于道
寺田甚右衛門

(貼紙位置)

物産局御用掛

庚午年正月十四日命ス

野州足利郡小俣村草莽
源 昌信
大川雲平

同年五月四日命ス前

東京府貫属
藤原顕美
山口清三郎

同年七月廿二日命ス

園部藩
菅原嘉憲
前田 実

同年八月十五日命ス

静岡藩
源 博文
菰田謙助

(貼紙)

「十六等二等出仕

深沢幸蔵

大川雲平以下三名共、物産局限り之出仕ニ而、月給

大蔵省の受取候ものニ無之、委曲ハ大木大輔殿御承

知ニ有之候事

別手組の消防掛へ当分御雇

庚午年九月廿九日乙

東京府貫屬
藤原明德
高橋清四郎

同前

同
藤原誠明
高野卯之助

同前

同
源 武則
篠原七太郎

同年月廿八日命ス

同
大橋慎三厄介
源 是平
額田八穂藏

使 丁

己巳年十二月十八日命ス

東京府貫屬
源 義雅
勝山保次郎

己巳年七月三日命ス

〔貼紙・朱書〕
以下九名
入籍願中

源 義明
岡 隆吉

同年月廿二日命ス

同
源 泰之
岩田伝之助

同前

菅原善彰
原 東馬

同前

同
源 久幸
矢田堀忠次郎

同前

藤原永信
五十嵐反三郎

同前

同
源 高邦
秋山永藏

同前

源 道利
中村敬三

同前

同
源 利春
樋田才次郎

同前

源 保忠
三浦国三郎

庚午年七月四日命ス

仏光寺宮家来
源 義則
中村源之助

同前

藤原徳勝
中野彦五郎

同前

東京府貫屬
源 美利
大原次郎

同前

源 安茂
浜田与十郎

同前

源 守庸
大葉卯三郎

同前

片岡小参事厄介
平 維戢
村岡新吾

同前

源 和儀
金坂三吾

同前

静岡藩
源 顕文
佐々木支蔭

出仕

同前

同

東京府貫屬
源 美賢
荒川六藏

庚午年七月十八日命

中 学
少 教授

仙台藩
源 修
岡千仞

同年七月九日命ス

同

磐城平藩
越知通故
野 享

同前

同

伊勢崎藩
平 宗敬
平田一郎

同年八月十日命ス

中 学
大 舎長

高知藩
藤原道琢
間崎琢一郎

同年六月廿日命ス

幹 事

名古屋藩
藤原忠質
竹田□□郎

同年月十八日命ス

同 学
少 舎長

東京府貫屬
源 正成
岡田午之丞

同年九月八日命ス

同

佐倉藩
藤原 弘
八木弘二郎

同前

同

同
藤原米貞
島野金次郎

庚午年六月九日命ス

大 訓導

小田原藩
源 珎休
村上準作

同年六月廿八日命ス

主 張

吉田家々来
滋野高道
青柳真証

同前

同

牛込下戸塚村草莽
藤原益友
桜井鉦八郎

同年七月廿五日命ス

同

津和野藩
藤原幸正
高藤性之助